

輝く生きる力を守ろう ～大湿原とともに

嘉藤 慎 (かとう しん)

NPO法人 サロベツ・エコ・ネットワーク
(主査・事務局書記)

農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第6回コンクールで奨励賞を受賞した団体、「NPO法人サロベツ・エコ・ネットワーク」の嘉藤慎さんにお話をお伺いしました。

《はじめは》

北海道最北部に位置するサロベツ湿原は、「利尻礼文サロベツ国立公園」を有する豊富町や幌延町にまたがる海岸線に広がる、国内最大級の高層湿原*で、自然の花々や野鳥を観察することができます。

1986年にサロベツ原生花園自然教室（ビジターセンター）ができ、湿原の情報拠点の施設として運営されていました。2003年、「サロベツ・エコ・ネットワーク」が設立され活動を始めました。2010年、施設の老朽化や展示物の劣化により自然教室を閉鎖、2011年、新しく「サロベツ湿原センター」がオープンになり、活動の拠点をここに移して、現在に至ります。湿原は、長年の環境などの変化により、面積などが減少している状況です。この大湿原の自然を守るため、サロベツ及び周辺地域に対して、自然環境を保全するとともに、豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として活動をしています。



なまら!!サロベツ∞クラブ活動の様子

* 高層湿原とは泥炭の層が厚く地下水位より盛り上がった湿原。湿原は低層・中間・高層の三つに分かれる。



《年間を通して活動》

主な活動は、自然環境教育・自然環境保全・自然調査研究です。自然環境教育の活動としては、地元の子どもたちを対象とした自然体験プログラム（なまら!!サロベツ∞クラブ）を開催し、身近な自然を学ぶ野外活動や自然体験活動を行っています。また、環境保全や自然調査研究の活動としては、特定外来生物の巡視や除去、シマアオジやチュウヒなどの希少鳥類の分布調査、渡り鳥の飛来調査を行っています。このほかに、湿原の乾燥化などにより貴重な自然が徐々に失われていくのを防ぐために、自然再生事業の活動の一つとして、地域住民なども参加して海岸や河川の清掃と稚咲内海岸線にミズナラの植樹を行っています。

《自然とともに》

一周約1kmの木道が整備され、春～秋にかけては、たくさんの花々や野鳥たちを間近に観察できます。初夏には黄色のエゾカンゾウが咲き、広大な湿原の彼方に利尻山が見え、壮観な景色に圧倒されます。冬にはスノーシューも楽しむことができます。

これからもこのサロベツの豊かな自然の魅力年間を通してもっとたくさんの人に知ってもらい、人と自然の共生を目指し、併せて地域の活性化へも寄与するよう、豊かな自然を守りながら活動をしていきたいとお話をしてくださいました。



エゾカンゾウと利尻山

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。